

防災用街角ラジオ・ミーアキャット

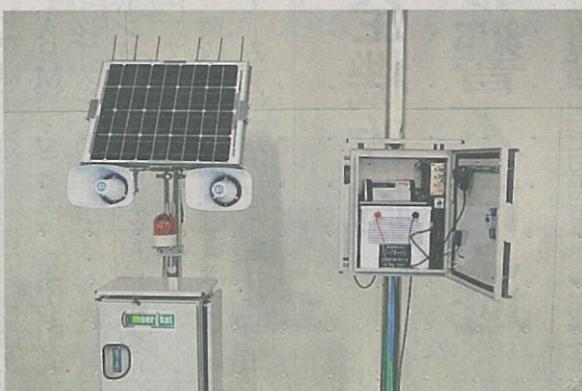
暁電工(島田市)

太陽光パネルとバッテリーによる独立蓄電方式を用い、停電時でも情報を受発信し続ける「防災用街角ラジオ・ミーアキャット」を開発している。音楽プレーヤーなど外部機器との接続端子やハンディマイクを備え、緊急時以外も利用できる。災害発生時は、停電するとラジオや防災行政無線からの情報が頼みの綱だが、乾電池を電源とするラジオや内蔵バッテリーで電源を賄う無線で

創造企業
しづおか

は、情報を流し続けることが難しい。ミーアキャットは、日中に太陽光で発電した電気を内蔵バッテリーに蓄えて夜間や停電時に情報を受け取れる。また、震災のときには、東日本大震災現地で被災者から

停電時も情報受発信

経済
しづおか

停電時も情報を受発信し続けることができる「防災用街角ラジオ・ミーアキャット」



曾根靖之社長(50) 「思いやりを創造へ」を企業理念に掲げ、社会貢献への思いを持って開発に当たる。ミーアキャットは、電気設備の設計・施工・管理を一貫して担う強みを生かし、「命を守ること」を追求した。車中泊が課題となった熊本地震の被災地でも、情報伝達の必要性を強く感じた。全国各地に普及させ、防災につなげたい。

◇会社概要 1976年創業。社員9人。島田市南1の9の5。

「情報が届かない」と聞いた曾根靖之社長が、「停電時でもいち早く多くの人に情報を届け減災に貢献したい」と開発を決めた。緊急地震速報などを拡声放送する「FM放送受信型」と、防災行政無線の戸別受信機などを収納し拡声放送する「戸別受信機・防災ラジオ対応型」の2種類を用意する。納入した企業や自治体は、津波を警戒する沿岸部の作業場や同報無線の難聴、未整備地区を補完する機器として活用している。